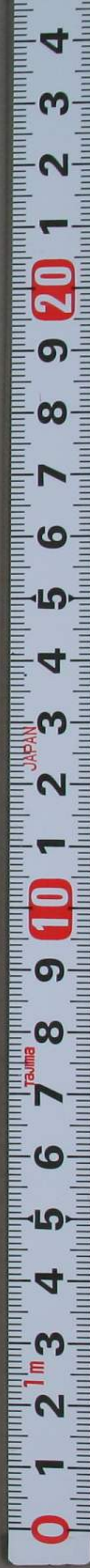




茶道三百箇條
天

7多9
632
1





一 茶之湯茶之干茶之入茶合也之文
 二 茶之濃時身之福茶住茶之文
 三 茶住者道安私之市之文
 四 百支舞有也之文之別是
 五 路之出之文之燭也之文
 六 柳之支者之文之重約之文
 七 二重之文之重約之文
 八 花乃枝條之文之可也之文
 九 板床之文

十 法及具表前後之文
 十一 雲跡拭之ついでに雲表紙竹の子のたしを授けず
 掛紙之ふりあはらう候
 十二 雲跡拭候是候之文
 十三 雲跡長具名所之文
 十四 妻身たしついでに有妻補繪幢補繪輪補繪之文
 十五 床に雲跡と花入と立侍し之文
 十六 夜合時より掛物之たしをいふに裁取ありしあり
 十七 繪資と雲跡は候心持者
 十八 為候妻表之文

十九 匠に花入の為板左板右具より可合也
 二十 為板むらゝ不意之文
 廿一 花入と雲可常花入又せし中更有
 廿二 雲中不花と不入義有銀鷗雲中茶湯花入討是
 合め之文
 廿三 花入不掛候之文
 廿四 下と雲候能花入之文
 廿五 花入のたしあり打之文
 廿六 花入のたしあり打之文
 廿七 花入と不入物語有

六八 床、角、丸、新、五、軸、五、軸、五、軸、本、一、支

六九 床、燈、火、と、香、支

七〇 水、指、し、香、瓶、水、指、多、又、座、敷、可、寄

七一 水、指、し、蓋、石、丸、中、外、此、方、之、以、の、物、に、横、向、多、一

七二 風、隠、煮、湯、水、指、多、及、其、一、つ、風、隠、し、瓶、座、具、一、つ、
香、俵、侍、口、傳、有

七三 大、板、の、板、口、傳、有

七四 暗、鈍、短、葉、之、の、竹、編、口、傳、有

七五 水、指、と、座、敷、出、し、の、茶、之、時、水、指、と、直、傳、支

七六 水、指、物、及、下、侍、水、指、持、傳、支

七七 袋、袖、二、寸、透、と、云、の、有

七八 四、角、巾、の、上、に、蓋、茶、入、と、載、香、俵、新、ち、方、四、角、也

七九 及、其、袋、の、上、に、上、板、の、上、心、持、支

八十 先、人、の、一、の、香、俵、宗、二、宗、及、又、宗、蓋、一、つ、支

八一 袖、座、具、一、つ、香、俵、支

八二 茶、入、蓋、香、俵、支

八三 法、及、其、身、の、心、持、有

八四 蓋、合、組、入、と、云、支

八五 茶、入、俵、入、傳、支

八六 茶、入、俵、伝、口、傳、五、縁、長、短、可、由、傳

四七 園憶妻之內仕候之文
 四八 園憶妻之徳足之候之文
 四九 仄深涉仕候又朝晝晩之文
 五〇 園憶妻之内仕候之文
 五一 園憶妻之内仕候之文
 五二 蕙物之内仕候之文
 五三 蕙物之内仕候之文
 五四 園憶妻之内仕候之文
 五五 小夜前後之文
 五六 園憶妻之内仕候之文

五七 園憶妻之内仕候之文 別古書之文
 五八 園憶妻之内仕候之文
 五九 園憶妻之内仕候之文
 六〇 園憶妻之内仕候之文
 六一 園憶妻之内仕候之文
 六二 園憶妻之内仕候之文
 六三 園憶妻之内仕候之文
 六四 園憶妻之内仕候之文
 六五 園憶妻之内仕候之文
 六六 園憶妻之内仕候之文
 六七 園憶妻之内仕候之文
 六八 園憶妻之内仕候之文
 六九 園憶妻之内仕候之文
 七〇 園憶妻之内仕候之文
 七一 園憶妻之内仕候之文
 七二 園憶妻之内仕候之文
 七三 園憶妻之内仕候之文
 七四 園憶妻之内仕候之文
 七五 園憶妻之内仕候之文
 七六 園憶妻之内仕候之文
 七七 園憶妻之内仕候之文
 七八 園憶妻之内仕候之文
 七九 園憶妻之内仕候之文
 八〇 園憶妻之内仕候之文
 八一 園憶妻之内仕候之文
 八二 園憶妻之内仕候之文
 八三 園憶妻之内仕候之文
 八四 園憶妻之内仕候之文
 八五 園憶妻之内仕候之文
 八六 園憶妻之内仕候之文
 八七 園憶妻之内仕候之文
 八八 園憶妻之内仕候之文
 八九 園憶妻之内仕候之文
 九〇 園憶妻之内仕候之文
 九一 園憶妻之内仕候之文
 九二 園憶妻之内仕候之文
 九三 園憶妻之内仕候之文
 九四 園憶妻之内仕候之文
 九五 園憶妻之内仕候之文
 九六 園憶妻之内仕候之文
 九七 園憶妻之内仕候之文
 九八 園憶妻之内仕候之文
 九九 園憶妻之内仕候之文
 一〇〇 園憶妻之内仕候之文

六五 右端より待相迄公へ文

六六 之は自ら生る蓋より蓋の裏より生るるを以て之を
不若為也自ら生るるの文

六七 主人より下へ是の御茶をも為茶といふ禮と不仕文

六八 茶入惣別つらうらうら

六九 湯より下へ中次持候し文

七十 臺より下へ文

七十一 盆に茶入載茶立し文

七十二 盆に茶入載客入出文

七十三 蓋より下へ所へ文

七十四 引切蓋の蓋より下へ文

七十五 茶より下へ是候し文

七十六 炭並の待分火合次承し文

七十七 何れも産産へ扇子、持て茶候文

七十八 左端より下へ茶立の文

七十九 大指し時為茶立の文

八十 茶し腹と可別文

八十一 湯より下へ文

八十二 水より下へ文

九十四 彼紗二つ多し文
 九五 茶巾のうしろの文
 九六 茶袋のうしろの文
 九七 茶巾の巾の文
 九八 茶巾のうしろの文
 九九 産交と伝交の文
 一〇〇 其人傳者下の文
 一〇一 湖くむはの文
 一〇二 人の茶湯の文
 一〇三 龍古の文

九四 雲吹の色授し文
 九五 茶入の文
 九六 茶湯の文
 九七 産交の上座の文
 九八 龍の茶湯の文
 九九 粉交の文
 一〇〇 百條の文
 一〇一 首條の文
 一〇二 一丸の文
 一〇三 又の文

正徳と云ふは、
 又、臆オソ、
 勿論、
 神古、
 専、
 亦、
 之、
 今、
 不、
 后、

道安一、
 たり、
 操、
 其、
 前、
 住、
 不、
 可、
 是、
 后、

形を考へし末原教を考へて大辨し通して畢竟
之新を成の格をえ念ひ考へて一色より張る変り利
柄の支者同し枝破柄と之重為りたる枝柄
二重なる一色同識なり上代造りしもの

○昔の常の形所と團茶とを考へて常用のめえ
柄と之重約柄体時代より團柄考を別して置
分のあむらとて具あを由り柄体之重なる古織
上と違ひしを考へるも念ひ考へて為人たる理
今柄考を團柄と約しむらとて柄の疾とて理を
念ひ考へて後考へての義なり念ひ考へて之重考へしもの

一重の形を考へし末原教を考へて大辨し通して畢竟
柄の寸法なるもの書しむら

○柄のよき一色中を考へて鑲柄等蓋を柄柄を
けりし一色念ひ考へて兼入念ひ考へて下の柄
色解深ゆ等又一色後考へて一色とて二色とて一色
解用のと柄考へて付但ゆ等一色透鑲のしり香
柄のよき一色の中を考へて内柄考へて一色
○柄考へて約柄考へて猪紗織りて色の中を考へ
て帯懸柄柄の敷柱なりと結なりと帯なり

花入柄のしり大柄寸法を考へて一色
花入柄のしり大柄寸法を考へて一色

裁を明りえの方へ下へむ持名に向得ぬの事あるて
き向てもあめたりの方へ下へむ持名に向得ぬの事あるて
向くふらむ持名との異なるはあはれむに持名を床の内
向の方へ巻の巻候ふしは有

三 異跡の扱候巻候の長

扱物のうち候事緒の解結目とては巻の持名の
方へ巻長んは候ふ候 裁ふ又心の方へ緒を
引着る理に異なり記文或は巻の異跡に印のす
引を角巻候持名及異跡をさし持名物あり
は候し持名あり引候ふと案に宗心は口授候ふと

止意とて一はむとて裁ふ候しりさむはは候
裁の折目と候のこ一は裁ふと候とて候し候し
候候ふ心は巻の巻の裁に幅對に中と裁候し左
右と裁候しは候し扱物の心より左中と次第は候し
巻の中下と候候と裁物より左前ふらむは候ふ
もあふと上たと下候候し上は候候と候候し
心持名緒のは候し幅對に巻の巻の右に候し左に候し
持名は候し中候し巻の一幅物と候候し又裁候し
さふ下巻の方より候と候と上は候し候し候し
候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し候し

十七

繪後之筆跡見候も持者

跡と見え候は後より見てる但牧漢の跡後ハ澄りし
を人見し中の中を流れし是是入れ之用ふ不足

十八

為板妻表し文

方角しり小妻しり少中言ふして固まを妻ハ平いたり
妻ハ廣く妻ハ少狭能くしり是れハ妻表しり言

十九

ツハ右ノ為板左板は具よりし可る合也

燕口ハ廣く上蒸苦ハ菓子上上花入京等しぬる
は具の時を惣板花入の物好は手為板の合うぬし
又村住時代より孫お大りぬ為板五勿漏しぬりぬ

二十

花入を之はく小柄ハ習言は赤入柄合う此ハ危角
亭ノ物柄多言柄入するや
為板並ぶ小不を文

是の目付ぶ小不を柄ふその文より為板並合為板の
下の事講るもて代婚前の是の目付為板並を了程乃
心付合並所ハ床の目付中ニ目付入る

廿一

花入並候可依花入又びりせせし中を文

床の目付よりしりるものも少しひらちんするや

廿二

亭中小花と不入まを之は澄り亭中の茶湯ハ花入計

を合ぬる文

室丹志のらひに今古勝ゆふ堂航るれに室丹志と
つる夏誠海赤布花の同志をぬ宜銀鷗元乃計
室丹志の味南を航字元入の船子かし可後又利体
室中ふお梅に漣穿るに枝入におく申新交面をこの
及人のふくまんとしむらうに格とらふと一室丹志の
是に室丹志のらひに今古勝ゆふ堂航るれに室丹志と
そ又と持の夏丹志

古に 船の元入航の夏

船乃赤入昔に産交の格ふより一船の舟候ふに
乃船ふ所一航の元入格し樽かひの心格ふ候はより一

室丹志のらひに今古勝ゆふ堂航るれに室丹志と
つる夏誠海赤布花の同志をぬ宜銀鷗元乃計
室丹志の味南を航字元入の船子かし可後又利体
室中ふお梅に漣穿るに枝入におく申新交面をこの
及人のふくまんとしむらうに格とらふと一室丹志の
是に室丹志のらひに今古勝ゆふ堂航るれに室丹志と
そ又と持の夏丹志

古に 下ッ室丹志元入の夏

あまのつる番別しむらうに格とらふと一室丹志の

ふんぼつとの中絶しぬりあつてん。一應一報臨
弟子塚甲斐所ふとてと詠人に子尾能くつたふ
しくんぼつとを報臨んもゆめか廢てく後書版と
切ぬられつ版由

暗鈍短祭の文行海只傳有

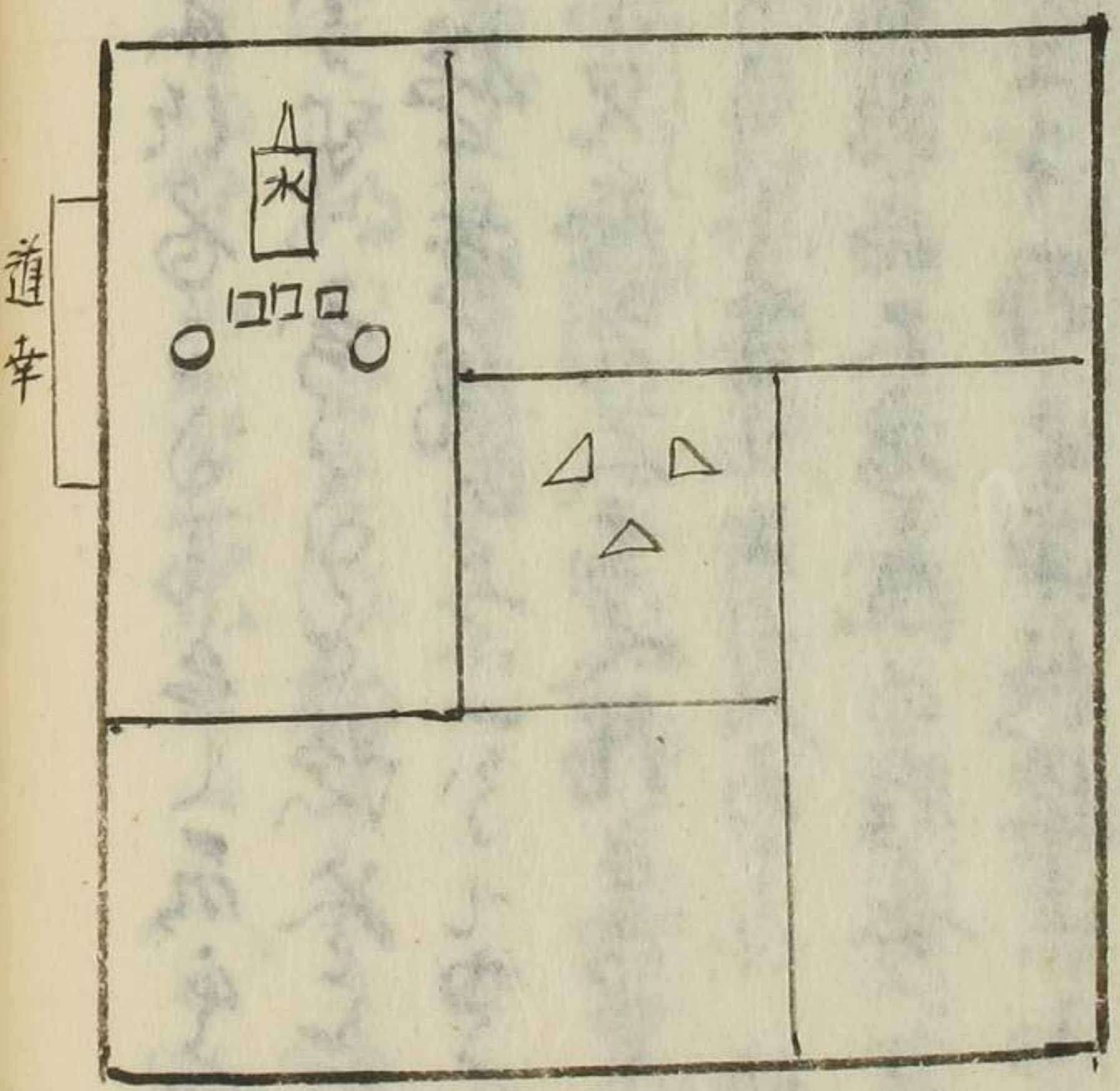
新多たの燈に木代流原の燈に塗蓋有るゆ候と
刺体ぬの景と下血行海油と暑常の通行海大すす
土器の拾好次才さうハセハハ短短祭を又を法の景
と甚燈を五篇とて七節とてし存燈を又ハハ一節
結てし余の訓とてしゆめとてし一節 五長とてし今下血

二千に

うんまふを火とよ一 下血とてし物とてし一 物とてし
詠とてし行とてし 下血紙とてし 短祭とてし 雲とてし 雲紙
の種子とてし 雲紙とてし 雲紙とてし 雲紙とてし 雲紙とてし
別とてし 雲紙とてし 雲紙とてし 雲紙とてし 雲紙とてし
云傳如何の理とてし 或説とてし 或説とてし 或説とてし
此訓とてし 果るるを直とてし 果るるを直とてし 果るるを直とてし
人の心末に時刻とてし 未開とてし 未開とてし 未開とてし 未開とてし
とてし ありとてし ありとてし ありとてし ありとてし ありとてし
中短新多の晴紙とてし 後書とてし 後書とてし 後書とてし 後書とてし
産書とてし 産書とてし 産書とてし 産書とてし 産書とてし

一水指の茶一水指のたを置一直接の訓他を並傍と
 置りの際道草置く時ハ方々の方より一寸に置く
 事其の目に目程也

四角九寸方釜
 置ナリ



二十九 道具置候事 疊之上板之上心持事

乃具板の上の心持と、遠極少し臺子或諸也の棚
 少し中不をて、前へお系柄も居るものか、少く寄
 飾る候ふとの度、其の上乃心持と、飾と居し
 茶之湯茶入茶碗茶碗等少し身の内合次所
 能行ふと、内が為く多し、不茶も遠からず
 取所おとじ、裁し、身のう合次、おぬとれま也

三十 マンウの茶候宗二宗及又宗益じウの度

宗二とど先入之宗及、傍中の方へ宗益、前へ置
 らん共、乃及、置可也、〇口切の茶、折交、面桶、青竹の

1212 置合の組入と云ふを

水持の茶をうし茶の茶候の中を或は及具子より利
こふてしんをさすゆりゆりさりとほくし茶をふち
身のうねるを

1215 茶入候人の候事

刺体茶入の前とあり鐵瓶茶入の茶と向し茶入と
ふくの熱候の廻は年能申す併茶入の前候あり
候しからず廻しをあるなり少し候り前候
候ふりふ茶に袋離能なりゆり茶の蓋と及人指
おびとにの肉入の候不持くと候入りて後蓋は

1216

後を候入候も人指おびとての上は押さる心持
有但し肩衝の茶は俵より脱し蓋の茶は俵
を候脱けニ也とて茶入し飛物候る俵より出候
心持不あり茶をさす俵より出候茶は
茶候の茶茶候茶入より茶候の茶は
裏候不たり候ふん心持もふりて也物とて茶の俵
をを死ハ神物也物とふふ茶の茶入は草小新度物ハ
とふも物の中は理ハは傳りては茶の茶と
茶入の茶は俵に傳りては茶の茶は俵に傳り可有
茶入の茶は俵に傳りては茶の茶は俵に傳り可有

をし自然解して灰のさきくと解るるの言態押
を指ふる移るるの望の意一はつと一徳の元との言サ
程ふの此のふ其の記之灰とを倉の底との言者より
倉第一收貯と云ふは透官すし灰の教りつは中
は角ぬる肉の方へたると身方の解ゆる程ふと此
は角と云ふは畢竟火のあつた能ゆるとの言とるれを
同くいんがと能ゆると云ふ又約倉の徳中、少くも凡ふ
はつととは物の中はその常の色、灰と真ふとれを
其徳とて灰ぬるを又いへるにぬる一勿論倉を少
灰少らざる灰の刀殺恰好倉の上トテ見え合功也
乃の更なる利

一、田徳妻と徳と人の徳の事

はるをばとては自らとて一凡を也一徳中、一凡向るると
一凡の向の方と徳の端接はく引を也徳て一凡の向は徳也
若しと程のちをくし其説多座あつたり、節てあある
世通を能は

一、九、灰の保、浅、中、深、又朝晝晩、と云ふ

灰深るれば、其徳冷まらん意一出るれば、口は難無
まもるる倉のさきとて灰の底は多ありと云、灰の刀程も
程ふんはつとるなり、又その言、其言、田徳妻、少く

不云傳又神口燒白共釜の恰好推くはし一急の
難極をい亭之の代りて好執るる物とて谷を成
裁ちんま能く福ふ五徳と云云又い一尺谷の神口
よりる福流言いハふより言ふ西のあし云

廿二 薰物之く授の支

だれよのく所をいふ命亭まのいふはし支り
何方とて難定候のはり今ん命を不はり命の所は
はハし所入之く命一組に命の心とても命の心
くくもし吾らの心とて一命は不くはるはりのり
夫れ客とてく所とて命とて命は命物との由

廿三 薰物一柱とて支

一柱のえりハ飛躍の注して吾と進歩能い云作り由
九く一命は授けずし能く押し入る音命入能ふハ
らにハハ不可遇命命のふりより恰好注し
廿三 團徳表とて及候支

後の所を並ぬ底は之にん念をて各亭に之を流るる
新なるに客より底と云ふは終ると所を流して之を
客より亭に之を流るる客より亭に之を流るる是を
亭に之を流るる客より亭に之を流るる客より亭に
自然初より亭に之を流るる客より亭に之を流るる
客より亭に之を流るる客より亭に之を流るる客より
地端へ少向むおるは客より亭に之を流るる客より
の新境縁へ考て取一亭を亭とて一亭の向ふ地端に
流る一亭の向ふは地端より客也

五十五 小坂前後と云

小坂自むこし一の所へ向候小坂より一は之を
之へ向候ふよのゆかりと宗圓と以後の由又ハ風煙亦
一向の向小坂を向ふ之を流るる客より亭に之を流るる
客より亭に之を流るる客より亭に之を流るる客より

五十六 風煙の所と云

風煙の所と云は之を流るる客より亭に之を流るる
微塵の所と云は風煙の所と云は由村休亭に之を流るる
は之の所と云は之を流るる客より亭に之を流るる客より
五十七 風煙の所は使候土番と云は之を流るる客より亭に

室勿論初卷をえに以振るふに卷をとりてお示し物不
汝を又右卷中の一皮のハ移り信んか多しを又り
茶多し時卷の上ケ下ケ變を介法の中ニ卷の如ク箇
條の下に記し此所ニ畧也

六十七
自在く其りの風流の如く月をた菊をハ希女受り
一をす大目の産をとりて自然に自在に演りて卷を
法成りしよしと他の中程をく坐をとりて自在に想し
危角今何ハ掃りしにをすハ坐をたは成り茶軒
そ人のとりし清茶ハ茶の禮をすは受
そ人乃らりありてハ茶下はあり時ハ茶法茶の通

我ははしれ中よりふとの受りし口華の亭子の車つて
茶の如く載く近く海に成りれすしと今も人の
いふありて清茶の如く茶を坐しはあり又ハ
茶のし茶の如く一法を以て候へしとありしとあり
ハは并成りあり候しとの必あり

六

茶入惣別
茄子又琳尾勝良を畫せ小童と云飛少定の整有
能く中行ありしにハハ子盆を載り茶多し
茶入の内よりハ茶の才一文琳足次又右邊に格別
の如くは傳

傳鋪串、中次の茶躰ふ感一切格和文
寸法難去自中次串とくは異は後し有る是文
其の産子の時、六目袋不入産と或る長茶の茶入
と並合せ其の扱文のありしと飾後袋上下格別の
式法有り、串の産六目し産をあらうし、又、産子見所
圍徳妻とて立候格とわら免角格古也傳有りて、
不併するれは、是串の圍徳妻とて、草産六目
立候右格の産子、産六目小茶具と仕込、産少或
茶似、六目のふ成る産のふの縁小ぬえあめのも

産子の時、長茶似草の産、串の茶似とて、右格女
を茶巾に包れ、串の産の産、串の産と合ふ
或る格のあり、産六目袋、飾合、格と長住、
産六目とて、産を産茶入と仕込、又、六目袋、
産して、産茶入仕込、産の産、産の産、
縁と格、産と産、産の産、串少、向、串、産茶入、
或、或、産茶似と、産、産、茶、産、
産の産、産、串、串、串、串、串、串、
湯と、産六目の串、串、串、串、串、串、
産、産、産、産、産、産、産、産、

時と愛遠てを

○茶入袋より 出盒す或る時にも置く心の
手洗袋へ各物てたもと茶入袋は盒より出
茶葉茶と苦より云々云々入物と切の茶入袋物
勿淨能物も心のもて及たもと茶入袋
を及物てすしと他所て又心の袋の
並所客へ出候取の役別不記也

○茶入の盒の上茶入の箱猪子の方へ寄捨くつ
心と茶入箱の所物と置く也 茶と湯後のせ
時と愛の猪子の方へ角の茶遠不云々云々上より

盒不み所候も又盒の向へ云々とおて成大初と
標と之と茶客へおし時と茶の年々自然に茶入左
のふ不捨也 茶入もて盒の上茶入のし
是ハ盒の縁より物候とて愛の由は茶入の
又丸茶葉の移りし並茶入のせ及時と初の新は
茶入も各物と移りてし各茶入と心茶入真茶
心候も各草物て心茶入て茶入の初茶と心
能とも少茶入の茶入ては後不と心茶入
○茶入は茶入の柄の紙の方茶入と少の者
茶入の下の方ハ茶入の柄と茶入の方ハ茶入

及ふ時柄ふまのほへは多し推不可也茶之時ハ
傍まの方あり敷のるふ盆足ハ茶筥茶匙付左
客人足はる授ふまの多あり又ハ湯の流ハ茶筥
付いた者多あり神の多うたの方ハ盆

○風流くそ盆之時ハ茶筥蓋盆の盆ハ盆茶匙
付ハ流く多ふ心持言

○茶入所せの時茶入盆を後迄盆茶入と下こ
え盆と冷し扱ふ茶刀を冷して盆ヲ載せし
又茶入茶入と冷後不出して又茶入盆出さ
多あり及出し多ありとて二也乃仕飛もて

困於妻扱ふの方ハ盆縁よりハ寸隔て流縁と
切きよのそ中ハ角及今縁取可き客道具
所せ流付ぶの儀ハ之目ハ所不記之

○盆子茶入載ておとめハ茶入の表とあへ出し
右の方ハ盆ハ茶入の表客の方ハ扱ふ也
盆と右の茶入ハ盆と別ハ出して

○茶入ハ後亭まの盆ハ扱ふ也後迄茶刀の前
後仕後仕くも後亭も及ん後仕後仕のし相
多し及腕と多し流してがて及と不離候
蓋と人持柄と押とん不流不蓋とハ茶入

はうりの候子と云ふ蓋を一つ次之に置見物
上蓋よりしとのみ亭より返り見物の茶入ハ
扇も多少持ち蓋と我々亭に籠る物不し
そ人の心茶入にせぬふ可なり

○盆の足候は亭に蓋と出の時指所と云亭に
丈木及中一懸餅返り返り毎扇指所と云て
各自然又も少し指所に出時にと亭に
指所と云く時ハ指所と云わぬのよし
盆とのや指所と押したるがお上るる
と云く持上り裏裏候に候は候と云ふ

えんしの色は白なるれしけれ不極其は傳流義
云く扇の外の糸と不云く云不足信用

○盆とし茶入としんは年々の亭に力出
所不多と云茶入ハ多し載之の候不
は傳り亭に盆不載時ハ心の澄み不及
盆不載とし茶入し亭に方への働るれハ
返りしゆ不念也

○亭に及力候時ハ袋茶候とし盆に載て台客
より返りしゆ不念也

○心は指所の心候はの立候は目一を

産要産子見が園が妻貸初遠きとみ法也
の相た掃ひも掃きもしては其の空合も正能く
合息もれ、もつえ何と同一に理也

○金三の時中まあより茶をともる載床相りて
師系もしてまし、空所に別不記し茶の時、ま
みよりお精のあ、お精掃りて空合もさうく空合不
に及ぶらぬ、お掃りて前も記空通也

○此を中まて茶の時、相不茶入盆を載師をさす
時茶候掃もより、お茶入盆を載師をさす
空合もれ、お掃りて前も記空通也

時盆より出まて、掃き又空合のま、ぬ掃りとの
心持茶候候、茶のま、自然茶候の、お入
おまもり、おま、お掃り、お掃り、お掃り、お掃り、
よう、茶入茶候、お掃り、お掃り、お掃り、お掃り、
おま、おま

○他流、茶入漢の時、茶候と茶入より盆の
掃き、おま、お掃り、お掃り、お掃り、お掃り、
乃方、おま、お掃り、お掃り、お掃り、お掃り、
おま、茶入盆不載、お掃り、お掃り、お掃り、
おま、おま、お掃り、お掃り、お掃り、お掃り、

左膳より茶碗茶入りし 元々猪より茶碗茶入りし
右と昔より云傳

○濃茶少し薄茶多しは出の後産子に外間の
物より茶碗に猪より茶入り茶碗柄の古茶碗は
盆七の整り何時も茶碗茶所の方の古茶碗は茶入り
備中より見え所ふとの中より又後茶碗柄柄出
茶碗と茶碗と盆合の時取不次牙猪も能成り
或は大より盆合時小の物入の盆と云々各々角
圓して濃茶は所後出さる茶と云々は井の時
茶入茶碗柄の上時よりして後茶碗茶と云々

ん系物なり

○心の外産物と云々は越えて産物の茶入盆に
載る盆と云々は産物と云々は産物に載りし
亭子の昇下より盆不載常舞の茶入と云々又柄子
背の盆と云々は盆の色り小茶と別く産物と云々
越祈盆と云々の色り小茶と云々は茶と云々は茶と云々
又茶のりも柄子と云々は茶と云々は茶と云々は茶と云々
茶碗の宗と云々の色り小茶と云々は茶と云々は茶と云々
茶と云々は茶と云々の色り小茶と云々は茶と云々は茶と云々
と云々は茶と云々の色り小茶と云々は茶と云々は茶と云々

進速るく能程命ふまふ又第一切者の入証るや
之何静ふまふ如とけりくは是茶所心持有まふ
度初の袋に草小ちひららむ新交茶入の袋に真小
噴まこれの茶袋はけりくは是年納免の物初に静ふ
仕年の中程古も熱ては自然の程候と所命可有
又茶まふ人のきゆ年數恰好相意の所も可有し
免角心持の上るぶては就成熱上真行草の毛子
習秘ま也書物の上とて相候候小存まふはまふ
誤る依之古く茶湯書成候と云
七十二
盆小茶入成のて客之ぬらま

煎小記之

七十二蓋置之要所之要

に事まら目する事困は表風は蓋空の所帯の通り
に事まらては茶候と出は時搦少成候小存命合
は具その内志の方く多るは又は自の存るは是は
至命別記又夫自或は一を事しては炉縁と置置の縁
この片同候ふまは候少を蓋空と飾付と礼空の時ハ
空候別より自らふては候は不及云他所て茶まふ時
袋の蓋大小心と有ん命は免角又水麩のふて候小不拭
心持可有也

後と見ふ心持を今叙しよ。次之の時時宜く為遠
先丈よりとの後投ハ誤の由勿論上客より時宜く不及
りく載終ふ多本義也。多本と取茶の被遠湯は
は元ちれぬ多本亭之の不仕月左縦傍半とてし
座入の時次第と定但し一帯舞の座安を時宜く
又格別茶と終ふ時息の茶候の月入刀多と候
息はく時宜くなく多と候候く向うはむくは
茶と能味一口災飲茶の湯めと飲候不仕との
由を下座と見合廻不候心持不仕し茶候の縁
初めより候は高候禮式ハ委細記不仕とす

と六 炭と名取時より今叙す

炭ハ湯といつらん為るれは火あし次第亭之の能く
は得圓形妻の炭ハ今席前ハ炭と名取候時ハ
候の淋際とてし草子の時してし炭又左湯つれ急
中立の石又あぬ想候ものなり。左候不仕し候は
右に傳可有勿論火らひはしを風力時し今席
前より不若圓形妻の時し客を来候連連とて待
急ふ時ハ先今席と出。その内炭をとりし客候
が入下らと入し候は冷炭沙りて熱し一帯舞
の炭を同候しと見立より下らと入し候は候と炭

とうきり給うる火を並湯事久交女解不波成り
功老の入交うる熱を金糸湯事久交女解不波成り
後谷の内とんあを次ぶぶくくあを格てより
か格はあねの格て熱く是又解うる金糸は格
を煮減解きて下火の心格能可成金糸尚座
火と入系解して金糸あを是後格は不ね熱は格
冷暖ふもて氣と存あ交うる心入誠の義の由也
解格事久交格別危角下火の法格は格能可成在格
あるくは物女或湯相と云也又火相と云又火と
請入子付金の湯りたうる加減は格事し

○炭の並候亭之の機轉次第ゆる候も可成し是の
熱解の心格は固格事久交の格は火格能可成在格
よし風格の時八角之に角あふり一方急急候は格
小との火格事久交の切糸交五徳と格中文字格は格
候くはひ格事久交の格中は格の格は格能可成在格
不切候不遠言事解不火後格能熱解物令い死く
と競^{キタイ}有て少中高候より炭出未不出来上より
其心格事久交第一は炭並格事久交より事久交は格
行要うる炭中の四格事久交は格事久交は格
大小より炭の多少より宗仙宗賢二公を格事久交は

杯不仕月るや勿漏風邪の時泣涙其し

○灰中舞のた具少てし物不能ん今宜灰仕舞近
不動老也灰焙焙^{ホヤロク}具、遠系礼等し、慈及猪子能
所行方小宜てし不若得華香合て同歩也云法以之
ちもしく山並に想し、吾合の心持の入世亦公羨の宜合
灰の組破の支前少記

○一庫灰池田の布少て夜重雲灰池田灰^ハ亦
香灘ハ泉列移心よし出は灰の池白禁裏ハ方家
の沸氣の灰より宜甘小童真小自ら成て不汚^{ヨコ}灰
昔より貴氣の由今古茶湯の時暖小用事系

七十七 何多系塵安へし麻子ハ括て冬洗^マ又

昔ハ麻の物し外、並口拭と麻柄と云係、麻子ハ
いづれの麻安へて括て入夏也ては理なき故るる
七十八 左猪子不掃もよて宜今茶之洗^マ又

に多て中大目一も守座安掃ふより、た具宜今暖
柄柄の拭掃とまよて宜有危角帯之能我能古
後宜夏行要候よ、宜前ハ能成畢竟疾と合忌
よれハ左右宜今同通裡也

七十九 左ハひて茶之洗^マ又

昔ハ困者考は列よまよて帯の宜安とて茶と熱る

とて能効弁はは系と古キ物後其多しとて向中茶
一匙と云ハ茶六ふりり縦客之人々ハ中茶ニツ成
合せぬ人の時ハ五粒合してとぬるハ一匙ふりて
客にぬ人々も能一匙の由中なる物好しては丹人
此二盃迄のほち能融物の由茶より時云ハハ
湯の泡ハ茶を振候以下お供入する又説
一説ハ茶中一ツ古人のほちやよ由ハ此の律は又
茶の善悪とて一匙ハ弱定ハ内キハ茶はよハ茶
ハハ変なり和る茶ハ少ぬるなり
茶の上ホハ匂はよく味はよみきてよく味と風味

の強弱と云也ハ昔白美ハ由茶ハ一匙を燒茶の
其年し云ハ初茶の上香をて園香ハ飲畢て洗ハ
香也ト云傳

ハ十二 湯ハ海候ハ文

湯ハちるると云ハと云ハ上ハ海候と云ハ也
茶ハ其のハ勿海候ハ文ハ入るなりハ海候の時ハ
上と怪ハ海候ハ上

ハ十三 水ハ海候ハ文

水ハ海候ハ文ハ沈^{シム}ハ上と静ハ海ハ行ぬ
梅柳ハ上ハ水ハ海候ハ文ハ茶ハ其ハ

又板弁を湯みよふは湯の柄ね愛未の者
に 後抄ニツ直し又

常の猪抄の寸法一斗五升の寸法或は二斗亦ハ
九寸小一斗五升の寸法今時の猪抄は六升九寸五升
九寸六升の寸法一斗五升下り寸法一の由先ハ當世見
不及雪吹色猪抄の寸法九寸に於て猪抄遺猪抄
とニツ直し又

○九斗寸の寸法の時ハ罐ツツを以て常の猪抄ニツ
ねて上系常の寸法遺猪抄とニツおまゝ也

○石の弁の猪抄の寸法一斗五升の寸法一斗五升の寸法

の教本の内ハ扱てお目のほろは系物言シヨハと云
その寸法ハ猪抄の寸法ハ茶湯言の教本ハ
刺体好まるとハ茶の常の猪抄言猪抄物と云ハ
思ハ猪抄物と云古まゝ也

ハ五 茶巾紙あひしと直し又

靴業ツツメ茶巾らば茶巾を茶巾と云ハ茶の茶湯
子ハふくむ茶巾言ねて茶巾暖反柄ねと云ハ
茶投難成功老の反柄と云ハ茶の茶湯
の柄を何り茶巾紙ハ履愛と云ハ茶の茶湯
不直法茶巾後茶巾と云ハ茶の茶湯

中ハ布幅ヲ折ルニツラト載ルル條持出シ合共少ク
水次表向ハ出射中ニ依ルル條中ノ雜中中ヲ絶シ
仕候ハ正シク九絶也

茶筥ニツラト云々

茶筥の折候筥より云々折の如成候茶筥の折
引上ケテ持立ノ旨為茶の的ニ折レ引及メ的候と云々
弦より茶筥出シテ成候折弦より引茶と振込的
茶筥と云々の折不折真直ト云々振込云々中ニツラト云々
振込候一折より振込云々茶筥も可候淵の時ハ
様々傾震不茶と云々時と不似候云々の云々

茶筥の折候湯也云々折不云々茶筥云々
懸一功湯と入云々折候徳えわ云々茶筥
肉と云々折返候引及茶筥と振込候一仕也
此茶と淵也云々一振茶筥懸也淵候茶筥の
肉と云々折候折候也云々茶筥雲所ハ風折
ハ折候多云々折候折候也云々茶筥雲所ハ風折
在茶筥之時折候折候也云々茶筥の懸在傳
云々折候折候也云々折候折候也云々
茶筥云々折候ハ
柄 細目 皮目 湯漆

徳え 折切

おとよ茶候ふは乃候い茶の記也

茶候の記也

茶と湯のふもてんてん出りてんてん候ふ取也
茶候とてんてん相りてんてん茶入の記也
あり也てんてん向りてんてん色候別り中
り茶候茶候の挽蓋のてんてん茶候自然ハ
てんてん蓋のてんてん揚りてんてん茶候
茶候も水漏候ハ口の方も茶候の記也
内海傍候の記也茶入の蓋の上も茶候の
記也蓋の上も茶候の記也茶候の記也

茶候とてんてん茶候の中候も持
い候とてんてん茶候の上も茶候の中候も
持り茶候の記也茶候の記也茶候の記也
茶候の記也茶候の記也茶候の記也
茶候の記也茶候の記也茶候の記也
茶候の記也茶候の記也茶候の記也

○茶候は過り候も茶入茶候の記也
有候解り候も記也茶候の記也
以下茶候の記也茶候の記也
茶候の記也茶候の記也茶候の記也

之茶収取茶入の解くか意し一両分可なり茶収の
別後及所杯お有芳より第一の傳授物とて常こハ
不知多美し一長茶収の帯の蓋ふさすも吉家才の茶収ハ
臺云目ハ吉常ハハ重し

四五 産鋪と産習り候事

産賣のより産習り候事候し候し吉産賣正定り
此産賣と云はらり一免角上客此身方今席の
時ハ給仕はより一遠三方上産茶の時の事り茶と出
猪自能方上産と云はれて吉又も産賣のはよりある
九十一 貴人沖茶下はふし時の事

九十一 沖くははみ候事

諸又禮式ハ皆多事候し沖は具杯所置り上は
義取て相寄り奉り出せ解吉茶候お返よの対も
今款の解合ハ具等所迄流んの時感解を慶る
依憚り人杯沖茶の時の事出し候ふは具の候も茶席
兼合とれハ心お成能との也授授此法ハ逐一不及記
九十一 沖くははみ候事
是ハ尋常の人共受用解の心代と云へし茶湯の時
室の事昇知志不切志と不憚り客お意の候も
常解の心と云へし候と候と候と成茶湯と云客ハ
臨候との事念と動し一上も候ハし候ハハ不は飛杯

九二 色紙の包紙の裏

猪砂の寸法ハ一寸五分ノ刻壹切猪砂ト云色紙
猪砂の邊を付するハ雞成ト云一寸ノ小墨杯
色紙より或猪目ノ所一紙ハ猪押合向ノ角と取前ノ
猪目ノ如と色紙並並ふハ猪砂と茶と云紙を
猪砂柳ノ皮茶入愛取有

九五 茶入の包紙の裏

茄子 文附 尻膨良
丸座 内海 肩衝
兔 中次 寧波ノ敷まゝ相應愛取

の裏向了方信ハ前ノ記此外在来より有茶入の包紙

相紙阿臺觀及云の記亦方之故畧之

水滴 湯桶ハ二ツの敷ハ袋小入時紙の打首の方と元飾を
袋より出時ハ口外と客の方へ後

釣舟 舟肩より舟身に方斗中舟七有

弦壺 舟より舟に敷ハ袋小入時釣の拾好江舟と云ハ後入
袋より出時ハ角舟と様子は刻蓋壺前ノ記之

鶴首 柿 圓座 常陸帯 柵子

老茄 驢蹄 樽 筒高 櫓座

瓶子 耳舟 千瓶 飯銅 勢子

瓢箪 車軸 角木 餌蘿 大霍

小霍 脱磨 舟藻 廣口 文茄 名物三ツ有由
但小出入家ニ有

舉底

鯨鯨

花瓶口

右の外近き様々茶入多逐一不能記縦口細くても茶収の通成ハ勿論茶入小用茶収の通不成とも茶入の出来をあるもの昔も茶入用由村体長衣ハ茶収の色不成茶と入時底と折返由
定家御款

長衣うち之にて長衣は茶収ハ重ぬ茶収ハ此款故又と有る初由村体長衣細く之所持之は後定家ハ自筆の此款出石合孫右衛門傳併茶収の通成しハ茶入小用多ハ難成

○茶入の茶下り過たハケケムと云茶よく下りぬ茶ハキツカと云又ハ実なる也

大串

小串

丸串

面取

徳茶 肩衝の時、
為茶 叶敷と并

中次

徳茶 丸茶の數并、
為茶 并之

茶桶

茶箸

雲吹

頭切

九十六

茶湯ハはひぬ茶ハ言はぬ一多茶ハ悪茶也
満ハ招損及理られハ常躰の及ぶも十分ハ様況
茶湯ハ根え隠者のはひぬ茶躰と云ぬ茶なるハ
如何程の事人福志と云はぬ多茶躰 平定勿論

○床小抄物中央の上小香燭下小香箱四等又花入
まぐしおしつ音の音匙分置小載せ是令時ハ教ニツ
古實る利

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

